



の が き 野垣あきこ

子ども・くらし・平和



2024年6月5日 No.188 連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ!

区議会第2回定例会がスタート

補正予算を提案 障害児保育に区が独自支援を実施



記者会見の動画



5月27日、岸本区長は記者会見をひらき、区議会第2回定例会に提案する補正予算(第3号)の概要を発表しました。今回の補正予算は、22事業で総額5億6千万円が計上されました。会見では、次の2事業が紹介されました。

障害児・要配慮児へ支援

地域型保育事業所(19名以下の小人数の保育で、0〜2歳児までの乳幼児を預かる事業)に対し、障害児や配慮が必要な児童が通う場合に、保育士が増員できるよう、区が独自に財政支援する費用が計上されました。

国・都・区が負担する既存の障害児保育加算・約1千万円に加え、区独自に約2千万円の予算を付けます。これにより、児童一人につき、最大で職員一人分の人件費相当分が上乗せされます。

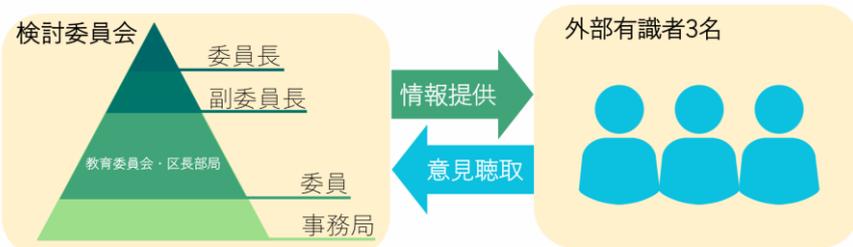
■障害児・要配慮児への支援 2,972万2千円

・地域型保育事業所における、障害児・要配慮児認定の仕組みを導入。区が行う認定により、保育士等の配置改善を行った施設に対し、国の公定価格の加算に加え、区独自に上乗せを行う。

地域型保育事業施設	施設数	在籍数(R6.4.1時点)
小規模保育事業(私立)	25所	329名
事業所内保育事業	5所	54名
家庭的保育事業	12所	52名

■教育委員会の運営(検討委員会の設置) 98万円

・教育委員会等の不適切事案の検証及び再発防止のため、検討委員会を設置



教委の不祥事再発防止に向け検討委員会を設置

また、この間、教育委員会で発

会見で区長は、「現場から人的サポートが必要との声が上がっていた」と述べました。

生じた重大事故や、公益通報により発覚した不適切な事案等について、要因の分析及び再発防止対策を検討する委員会を設置することとなりました。これに伴い、第三者として外部有識者からの意見聴取に要する経費を計上。区長は「最終的に報告書にまとめ、今年の第4回定例会に報告する」と述べました。

杉並から都政を変えよう

蓮舫都知事を誕生させよう 杉並キックオフ集会に150名！



▲集会で語る前川喜平さん

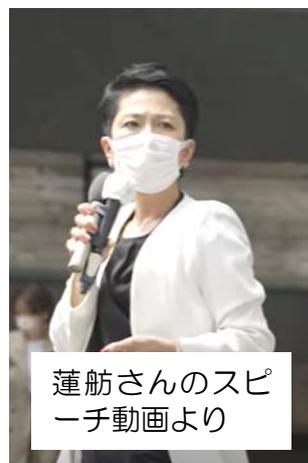
※政党・会派からは日本共産党、立憲民主党、生活者ネットワークの議員も参加しました。

6月2日、市民と野党でつくる「住民思いの都知事をつくる会 杉並」は東京都知事選挙に向けてキックオフ集会を開き、会場いっぱい約150名が参加しました。

前川喜平さん ゲストで講演

はじめに、市民と野党の候補者選定委員会の前川喜平さんから、都知事選をめぐる情勢と、蓮舫さんという最強の候補者を選定したことが報告されました。

前川さんは、文科省事務次官時代に、国会で小池百合子氏（当時は自民党の衆院議員）の人権感覚に欠ける発言や行動を何度も見てきたなどの裏話も語りました。



蓮舫さんのスピーチ動画より

蓮舫さんのスピーチ動画に拍手が沸き起る！

次に、集会当日に有楽町で行われた蓮舫さんのスピーチの動画が上映されました。プロジェクトシンママッピングや大型開発などに多額の税金が費やされていることへの批判とともに、都民のくらしを支える都政をつくりたいという内容で、参加者から拍手が沸き起りました。

住民からも期待の声が！

杉並では岸本区政が誕生し、対話や住民参加の区政が実現しましたが、東京都による事業については杉並区だけでは変えられない問題も多くあるのが現状です。杉並区内で都市計画道路の拡幅や善福寺川の地下調節池計画に反対する住民からは、課題の解決のために「蓮舫氏に期待する」「都知事選を頑張りたい」という声が出されました。

今回の都知事選挙の投票日は7月7日で、「七夕決戦」とも言われています。短冊に様々な都政へのねがいを書いた笹飾りも用意されていました。

豊かな財政くらしに活かし

都の予算はスウェーデンの国家予算に匹敵し、都税収入は8年間で1兆円も増えています。この財政力を、国保料の引き下げや都営住宅の増設、若者への家賃補助、シルバーパス無料化、低所得者世帯への医療費のくらしは大きく前進します。

都民の願いを実現する夢と希望あふれる新しい都政をつくるために、日本共産党はみなさんと力を合わせ、蓮舫都知事の実現へ全力をあげます。

7月7日は都知事選挙です。

市民と野党で構成する候補者選定委員会は、5月27日、**蓮舫**さんを選出しました。

都政をかえよう杉並から

市民と野党のリレートーク

6月9日(日) 16:30 ~ 18:00

荻窪駅北口

住民思いの都知事をつくる会 杉並

映画「トノバン」を観ました。15年前に亡くなった音楽家の加藤和彦氏を語り継ぐドキュメンタリーです。トノバンと一緒に音楽活動をした関係者たちが、次々と彼の魅力を語ります。

私は彼の初期の頃のフォーククルセダーズの歌が好きで、中古のレコードをよく聞いていました。恵まれた才能を持ち、時代や固定観念にとらわれない発想で様々な音楽を輩出した宇宙人みたいな人と思っていました。

あきづの部屋

精神科医でもある元フォーククルセダーズの北山修さんが、彼の晩年の精神疾患や経済的な困難について語っていたのが印象的でした。今や精神疾患は珍しい病気ではなく、芸術で食べたいのは本当に大変です。

人の才能や個性を花開かせ、学びたい人が学べる社会はどうしたら実現できるのか？共産党の未来社会論に注目が集まっています。文化芸術の発展にも大いに寄与することでしょう。